

## 膨大な遺構と遺物は語る



(左) 木造僧形神立像、(上) 銅製分銅

古府シマ遺跡は加賀国総社である石部神社の南西側丘陵裾部に展開する遺跡です。梯川改修工事に先立ち平成30年度から発掘調査をおこなっています。

調査区では、9世紀末頃から16世紀頃の遺物が出土しました。特に、平安時代中期から室町時代にかけての多数の遺構や遺物を発見しています。遺構の多さは、

建物や井戸を幾度も改築・掘り直したことを示すもので、居住した人々の財政力がうかがえます。出土した遺物には銅製の分銅や「厨(くりや)」墨書土器、緑釉陶器、青磁、白磁といった古代の貴重な品や、在地の信仰を語る木造僧形神立像(13世紀)などがあり、注目されます。



R2 発掘調査

しょう にしじま いせき かがし  
庄・西島遺跡 [加賀市]

庄・西島遺跡は、江沼平野のほぼ中央に位置する弥生時代後期から中世の集落跡で、この地域の中心的な集落の一つと考えられています。国道改築に伴い平成27年度から発掘調査を進めており、6年目となる今回は遺跡推定域の東西2地区を対象としました。

東側の桑原町地内に位置するV4区では、奈良・平安時代の掘立柱建物2棟のほか、古墳時代の溝が確認されました。前年度調査で確認された、調査区西側を流れる古代の川跡まで、建物域が広がることが判りました。

西側の津波倉町地内では、庄跨道橋をはさんで西端をY1区、東側をX1～3区として調査しました。東端のX3区では、縄文時代中期の土坑や中世の溝が確認されましたが、以西のX1・2区は周囲より低地で生活には適さなかったのか、遺構・遺物は僅かでした。

庄跨道橋西側は、古代寺院「津波倉廃寺」の包蔵地として知られる区域ですが、現在位置を特定できていません。今回の調査でも残念ながら発見に至っていません。確認された遺構は南北方向に延びる古代の道路跡と、道路と方向を揃えた平安時代の掘立柱建物2棟などを検出し、柱穴からは墨書土器が、道路跡では古代瓦も出土しました。

過去の調査から、Y1区の東側には整然と配置された建物群が広がると予想されます。次年度の調査では、古代江沼郡における中心的集落の様相が一層明らかになると期待されます。



調査区遠景 (V4区・北東から)



総柱建物 (奈良・平安時代・V4区・北から)



道路跡 (Y1区・南から)



調査区全景 (Y1区・南から)



掘立柱建物跡 (平安時代・Y1区・南から)

## R2 発掘調査

ゆみなみ  
弓波コマダラヒモン遺跡 [加賀市]

本遺跡は加賀市に広がる江沼平野の北方、八日市川左岸に立地します。平成28年度に北陸新幹線建設に伴う発掘調査が行われ、弥生時代から古墳時代の集落を確認しました。

今回の調査は、北陸新幹線建設関連の取付道路工事に伴うもので、調査区は幅4m、長さ134mの範囲です。平成28年度調査区の南側に接し、その時の調査では、北から南へ流れる幅約3m、深さ約1.1mの大溝が見つかり、弥生時代後期後半の土器、古墳時代の土器や木製品が出土しました。今回の調査でも、この大溝の続きを確認しました。

大溝覆土の上層から古墳時代の土器、下層から弥生時代後期後半の土器が見つっています。大溝の水流を堆積状況からみると、弥生時代後期後半は比較的早い流れが認められるが、その後古墳時代には淀みとなり、埋没した様子が窺われます。

大溝底近くで弥生時代後期後半の赤色漆彩文容器（口径17.8cm）が出土しました。弥生時代の彩文された漆器は全国的にも珍しく、北陸の漆文化を紐解く貴重な資料になります。木地はトチノキを削り抜いて作られ、黒漆地に赤色漆で模様を描きます。赤漆で細い横線を引く模様は、朝鮮半島や北部九州の漆製品にもみられ、その系譜に関心が集まります。



赤色漆彩文容器



調査区遠景（南西から）



大溝完掘状況（西から）



大溝弥生土器出土状況（北から）



赤色漆彩文容器出土状況（西から）

R2 発掘調査

ゆみなみ いせき かがし  
弓波遺跡 [加賀市]

本遺跡は、加賀市の北部に広がる江沼平野<sup>えぬま</sup>を流れる八日市川<sup>やっかちがわ</sup>と尾俣川<sup>おまたがわ</sup>の合流部周辺に展開する大規模な集落遺跡です。平成 28 年度の北陸新幹線建設に伴う発掘調査では、弥生時代から室町時代の集落や弥生時代の方形周溝墓<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>、古墳などを検出しました。

今回の調査は、北陸新幹線建設関連の取付道路工事等に伴うもので、幅約 5 m の細長い調査区です。平成 28 年度調査区に接しており、古墳時代後期から奈良時代の掘立柱建物が見つかっています。今回の調査で見つかった柱のうち、板材の柱（幅 30 cm）が板塀を構成するもので、丸太材（直径 33 cm）が掘立柱建物と同時期の可能性が高いと考えられます。また、旧八日市川の川岸も調査区にかかり、深さを確認したところ、1.3m ありました。川の最深部は調査区の北側になり、もっと深くなると考えられます。

遺物は、古墳時代の土師器、奈良～平安時代の須恵器などが出土しました。



板材の柱（南から）



丸太材の柱（東から）



調査区遠景（北東から）

## R2 古代体験

## 古代体験学習講座『須恵器づくり』

令和2年10月25日(日)に古代体験学習講座「須恵器づくり」を開催し12名の参加がありました。最初に須恵器の歴史や特徴について説明を受け、そのあと、県内で出土した須恵器を参考に「杯」や「長頸瓶」を製作しました。「長頸瓶」は、輪積みした筒状のものにフタをして内部を閉塞し、ヘラなどを使って少しずつ力を加えて成形する「風船技法」とよばれる方法で製作しました。製作した作品は、しっかり乾燥させたあと、当センターの「復元古窯」に窯詰めしました。職員の製作したものも含め、窯詰めした作品は320点ほどになりました。薪を燃料に約70時間かけてじっくり焼き上げ、最後には1,200℃を越える高温で焼成し、窯を閉じて空気を遮断し、還元状態にしました。窯の内部が冷めるのを待ち1週間ほどしてから窯から出しました。そして12月12日から当センター本館ホールで作品の展示を行いました。



須恵器の成形



復元古窯で窯焼き



焼きあがった須恵器

## R2 情報発信

## 令和2年度講座 考古学最前線

## 『縄文人と植物の関わり－漆文化の起源を探る－』

令和2年11月28日(土)に石川県地場産業振興センター新館コンベンションホールで開催しました。はじめに当センター調査部の山川史子が『縄文人と動物－七尾市三引遺跡を中心に－』と題し、同遺跡の縄文時代貝塚から出土した動物骨の様々な痕跡からみえる縄文人とのかかわりについて報告しました。また、近年当センターが実施した縄文時代集落の七尾市田岸遺跡の発掘成果の一端も発表しました。

続いて学習院女子大学の工藤雄一郎准教授の講演では、私達が在来種と思いついでいる身近な植物の中に、実は外来のもの(アサ、シソ・エゴマ、ヒヨウタン、ウルシ)が多いとの説明に参加者の多くが驚いていました。さらに近年、三引遺跡の漆塗櫛を年代測定した結果、約7,200年前のものであることが分かり、その頃には漆製品の製作技術が確立されていることから、少なくとも漆文化の起源が縄文時代早期末～前期初頭まで遡る可能性が高いことが指摘されました。



工藤さん(左)と山川さん(右)



会場の様子

R2 古代体験

## 古代体験学習講座『縄文土器づくり』

令和2年11月29日(日)に『縄文土器づくり』を開催し19名の参加がありました。

今回の縄文土器づくりは県内から出土した4つの土器をモデルにしました。それぞれ形や文様に個性、おもむきがあり、参加者の皆さんはどれを作ろうか迷いながらも、決めた土器づくりに取りかかりました。

「ゆっくりやっていると、だんだん乾いてくるので時間との闘いだ。」「初めてなのでハードルは高かったけれど、興味深く楽しい時間が持てた。」「物づくりの難しさを感じましたが、6時間があっという間に過ぎ楽しめた。」など参加者から率直な感想が出て、「自分で作った土器をはやく自宅に飾りたい。」と、できあがり待ち遠しい様子でした。

当初5月開催の予定でしたが、コロナ禍で体験工房が休館となり、11月に延期となりました。野焼きは時期的にできないため、電気窯での焼成となりましたが、美しい仕上がりとなりました。



ガイダンスの様子



縄文土器の成形



縄文土器の文様入れ

R2 古代体験

## 古代体験学習講座『弥生の玉づくり』

令和2年12月20日(日)に「弥生の玉づくり」を開催し、11名の参加がありました。

最初に白山市八田ヒエモンダ遺跡や五歩市遺跡などの出土品をみながら、石やガラスでできた玉の歴史などの解説を行い、その後、ガラス玉づくりと滑石を用いたまが玉・管玉づくりを体験しました。

ガラス玉づくりは、鉄芯棒を回しながら溶けたガラス棒の先端を巻きつけて、丸玉に仕上げる「巻き付け技法」で行いました。巻き付けるのに一苦労でしたが、バリをとって完成です。

まが玉づくりでは、6cm四方程度の滑石を、石鋸いしのことクサビを用いて分割せっかく(施溝分割技法)し、まが玉と管玉の石核をとり、砥石てつきりで磨き、鉄錐で穴をあけて完成です。

みなさん真剣な面持ちおももで一日作業にあたられ、完成した作品には満足気でした。



ガラス玉の解説



ガラス玉の製作



まが玉を施溝分割する

## R2 古代体験

## 古代体験ミニ講座『剣づくり・鏡づくり』

令和3年1月24日（日）に「剣づくり」、2月7日（日）に「鏡づくり」を開催しました。

最初に青銅器についてのガイダンスです。金属の特徴として、溶かすことで自由に形をつくること  
ができること、混ぜ合わせるものを変えることで低い温度で溶けるようになること、また、つくりか  
たには溶かして型に流し込む<sup>ちゅうぞう</sup>鑄造と、たたいて形を整える<sup>たんぞう</sup>鍛造があること、青銅器は鑄造によってつ  
くられ、日本では弥生時代に銅剣、銅鏡、銅鐸などの生産が始まったことなどについて学びました。

次に、職員が鑄造過程を模擬的に実演しました。青銅を溶かすには1,000℃以上の高温が必要で危  
険なため、<sup>すず</sup>錫を主体とする低融点合金を溶かして鑄型に流し込みました。ドロドロに溶けた金属を鑄  
型に流し込み、複雑な形の剣や鏡になっていく様子を見て、参加者は古代人の技術の高さに感心して  
いました。

そしていよいよ、体験です。剣は長さ16cmの中細形銅剣、鏡のモデルは羽咋市四柳白山下遺跡で  
出土した径5.6cmの銅鏡<sup>ゆぐち かなのこ といし</sup>です。まずは湯口を金鋸で切断し、砥石で余分なバリを削ります。次の研磨  
作業では、砥石でこすったり、研磨剤で磨き上げたりします。根気よく丁寧な作業で光輝く剣や鏡と  
なっていく様子に、参加者はわくわくしながら時間を過ごしました。



鑄造の解説と実演



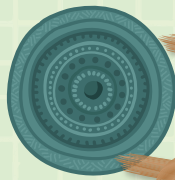
体験の様子



完成したピカピカの剣



完成した鏡



# まいぶん日誌

令和2年 (2020) 11月～3月  
令和3年 (2021)



11月

園児の来館です



みんな真剣に見学です！

須恵器の窯焚き点火！



まいぶん考古学講座



3人の職員が講師となり、3回にわたり開く講座です！

出土品の移送作業



一部、能登町にある収蔵施設へ移動します

センターの収蔵庫満杯

木簡年賀状づくり



今後ともよろしくね！

移築古墳の越冬作業です



シートで大切に包みます！

12月



須恵器づくりの作品返却です



きれいに焼き上がりました！

県の広報テレビ番組のロケ風景



アナウンサーが古代のはたおりに挑戦！

1月

令和3年もよろしくお祈りします



「剣づくり」



手は真っ黒でも、剣はピカピカ！

文化庁主催埋蔵文化財担当職員等講習会



オンライン講習に参加です！

2月

職員研修会



白山信仰や土器の話など興味津々！

令和2年度第2回ホール展



令和元年度刊行した報告書の遺跡から紹介です

「古代体験ひろば」雪景色



今年は雪が多いぞー！